

## 〈技術資料〉

# 漆はもっと使われていい ～漆の利用拡大を考える～

Urushi (Japanese Lacquer) Can Be Used More

～Considering Expanding the Use of Urushi～

大藪 泰

### Abstract

Urushi (Japanese Lacquer) is a traditional material of Japanese craft. We are trying to expand the use of urushi to other than urushi ware and Buddhist altars with our improved urushi. We improved the drying property and weather resistance etc. of urushi by focusing to the dispersed state of water-based components in urushi which is water in oil type emulsion. We consider the possibility of urushi while introducing examples with using the improved urushi. In addition, we also introduce the use of urushi for the restoration of cultural properties. Urushi can be used more.

キーワード：漆、改良漆、漆の利用拡大、漆工文化財

**Keywords** : Urushi, Improved urushi, Expanding use of urushi, Cultural properties of urushi

### 1. はじめに

漆膜の美しさは過去から日本人の誰もが認めるところである。さらに心の時代と呼ばれるいま、本物をゆっくりじっくり味わうなど、漆塗り製品は時流とあまりにも一致している。漆器に魅せられて、作家や職人を志す若者は多い。しかし漆器を使用する人は大きく減少している。作り手志願は多いが、使い手はいない。一方、漆は酵素反応による環境調和型塗料として注目され久しい。漆は21世紀の塗料だと、様々な人が漆の塗料としての魅力を語った。しかし21世紀になってはや20年以上、漆器や神仏具以外に産業用塗料として使用されている例はほと

んどない。漆はもっと使われていいはずだ。

膜の美しさ、心の時代、環境調和型塗料など漆を取り巻く雰囲気は見事なほどに整っているが、漆のものは売れない、漆の使用量は減少の一途である。この矛盾に日本の漆産業は苦悩している。

### 2. あなたは何に漆を塗りますか

京都漆器青年会がある。京都の塗りや蒔絵などを生業とする若い人の集団で、新商品開発などの展示発表をしている。あるときの研究会で、メンバーに何に漆を塗りたいかと尋ねた。その答えを列挙する。バス、電車、看板、洗面台、便座、床、ドア、ドアノブ、照明、行灯、鞆、

---

2021年10月14日受付

OYABU Hiroshi

(地独) 京都市産業技術研究所 技術アドバイザー